

ヒヨちゃんの死 ～そこに花あらば…

みんなから可愛がられていたニワトリのヒヨちゃんが、6月1日創立記念日の午後3時に亡くなりました。

ヒヨちゃんは昨年8月に、ひよんな事から預かったヒヨコ3羽の内の1羽です。現在の住宅事情・世情の中で、ニワトリが人間とともに生きられる可能性は皆無に等しく、様々な人から“処分”の声を聞くのが実情です。

しかし、ゴザの上で寝そべる我足元^{わが}で、無邪気にたわむれる3羽のヒヨコは可愛く、「自分が巡り合った命は大切にせねばならぬ。」と思いました。

ところがすぐに1羽が亡くなり、更にヒヨちゃんは生まれつき足が付け根から奇型で立てなかったのです。

…… そこからが奮戦記（我妻）

動けない体… メタボの防止… 毎朝、野菜を刻んでのエサづくり…

朝夕～畑地と玄関内サークルを抱きかかえての移動

床ずれ～化膿～獣医通い、抗生物質の投与、点滴、

床ずれ防止サークルの工夫、毎日体を新しいタオルで拭く等…

ヒヨちゃんの世話当番などはなく…次第にそれぞれの職員や子どもが自然と介抱するようになりました。

生まれてこの方 やさしい言葉がけで育てられたヒヨちゃんは、日本一幸せで、性格のいい鳥となりました。

しかし、先日……誰もいない時に、丁度一番世話をしていた3名(J, J, I)がたまたま居合わせた目の前で……少し苦しむ声を上げ、甘えるように静かに目を閉じて亡くなったのです。

誰に迷惑をかける訳でもなく…しかし、少し淋しいからいつもの3人のみに
身罷^{みまか}って貰^{もら}い亡くなる というのは健気^{けんげ}…

一つの生命は、どんなものでもとある意味を持っていると言われます。

ヒヨちゃんが生きた意味…

それは…

- ・そこに命があれば大切にする人を映し出したこと。
 - ・そこに花があれば水をやることができるか
 - ・そこに皆の為に行うべき仕事があれば 黙って笑顔で行えるか
- …が 人として崇高であるということを私たちに伝えたように思います。

ヒヨちゃんはその日の内にJ先生が葬儀場に連れて行き、荼毘^{たひ}に付しました。写真で見る死顔^{しがお}は「ありがとう」と言ってるかの如く穏やかなものでした。

又、私にこのとりとめもない文章を書かせているのもヒヨちゃんでしょう。我々大人諸賢人^{しよけんじん}は、この体験を子どもに話し、命の意味を伝えられればと思います。

今回、ニワトリを飼育する限界も感じさせられました。

しかし、残った1羽の「コッコさん」は、今も元気に畑で鳴いています。

淋しがらせないように皆で可愛がりお世話をしたいものです。